



國朝舊章錄

698
1

73
698
1



門
號 698
卷 1

國朝書章錄

題目錄

卷之三

一 天下八天下北編

西成待漢

室新也通清撰

一 又世之綱八常月之詠奇

右同人錄

一 神祖御上世法合戰場

一 御高家御代之法書判御集下家



御之家長
松年如買馬

書判

卷之三

一 隆邑源

慶長分厚保進治大石之
家之級減少之事案之也

林久學政法與撰



卷之三

一 武家執政之事

御高直御代
之申 御代
台 御代

弘文院書子奉口女撰

一 沙汰修之事

大蘇云御代
御代 御代

右同人撰

卷之四

一 新帝踐踏之事

武家御代
御代 御代

右同人撰

一 仰而任之事

右口以

右口以

一 臨祥之事

右照入
御代 御代

右口以

一 朝室化質之事

御代 御代

新井筑後守撰

卷之八

一 浪制之事

浪制式
御代 御代

一 年記考之事

天文
御代 御代

林内記撰

卷之六

一 兼穀入之事

御代
御代 御代

法陽寺撰

同中

一 右同

右同人撰

同下

一 右同

右同人

卷之七

卷之七

一 殊號事略

曰下五之安和後
天子漢事此也

新井筑後守右女

卷之八

一 同下

介玉身聘也
大五九也馬也

右同人撰

卷之九

一 卯寅之事

右同人

卷之十

一 朝冠風俗之更

宗對
白鹿皮衣撰

一 遠陳書札

新井筑後守右女

一 卯寅卯傳教沙庄浦并洲之西建之孔給額

一 筆名之事

一 卯寅卯沙代卯院號文字也洲

卷之十一

一 沙島島西島號之事

右同院法言撰

卷之十二

一 天正分貞言事申進事物之存于世也
卯寅卯島心守之事

卷之十三

一元源の元文進者日記

以上

玉翔齋高章源卷之二

天下と天下の海

室新物直清述

尚付天下其水年々なるもの世よ有る海者臣の
人えより親戚親と賢と賢と親と親と
ととと臣と臣と臣と臣と臣と臣と臣と
利とて優渥ととと年々なる海なる海
よりの海と親戚親と賢と賢と親と親と
室新物直清述ととと天下の人とと
居るく右年々其年の海ととと人ととと

昔悲う波にとまらんしんしん一箇は又かの心
も照高風は極る白は流し一即一まら
撥乳反ふし流ひてうり今百年を極し及て
千文動うすは海神也よし一云下春年入
化は流しぬ又誰う流出の流きと載る流し
我ちと流しぬき又かこ一の心通るれし
上の即ち流と述て世は流しぬらひの流し
の事なりぬし流し悔ふしきぬとわしす流され
即ち流多き事と曰は流しよ感しとわし
流し世よ流しせましくとひるあるなる者入

ぬよ流しぬらぬ一云下ハ云下一人の
る事よわしすし事ハ流しぬらぬと云下
君きる人ハ一のよ流しぬらぬと云下
世は利しる事と云下一云下ハ云下
二代と除ては割業の名入云下と云下
を人の衆し一云下の云下と云下
明のち祖割業の初中小王流連軍中して
病とゆると云下及て流しぬらぬと云下
と云下流しぬらぬと云下
ち祖自し山川の社よ流しぬらぬと云下

逢うカキとわさしはるまふよおわくは逢う死せ
し時ちんカキと一はよあう死くと神よつち
まらうを祖の法將命達とまらうは云下成
年まきすはれ功命達まらうはらうけ時下
南てまらうて逢う死くと神をらう時つち
夫の年よ命とくられしはらうはらうのやとあらう
らあておま年下下は女危とまらうて死ら
法ともよ死らんと神命とくけて神よらうは
成るくは神明の史派と逢てまらうはて神長
らていれしはらうはらうの別はらうの馬接光

或とうく帝まの志とくをくさとわらん
くえらう命達とたする時下はらうは帝
して返嗣とまらうはらうくと因てまらうは
祖命く死してまらうはらうは危れ事はらう
よはらうはらうはらうはらうはらうはらう
くはらうはらうはらうはらうはらうはらう
逢うまらうはらうはらうはらうはらうはらう
天下とらうはらうはらうはらうはらうはらう
とらうはらうはらうはらうはらうはらうはらう
下のまらうはらうはらうはらうはらうはらう

漢のうら視光武操とおゆるし絶ゆるべし
けんくをうくちん天ととぬれく若く
のゆきまをぬて何とまるとくくく
通んうとらまひするやていさうひ
とぬてとぬてまふぬく泰の好皇極之
頂相神洞ゆてと進んら長秀台浅
らひてぬらぬくまぬおにぬてま
くくくくくくくくくくくくくく
中くにくくくくくくくくくくく
控着くぬくくくくくくくくくく

かよ長久の人の後 とも照ふ次は豊
長秀台よ沙和能者くは秀台使と
を引渡松入をくくくくくくく
沙和能者とするくくくくくくく
よ使まらぬくぬくくくくくく
相の同をなうくくくくくくく
信くくくくくくくくくくくく
沙和能者くくくくくくくくく
か少信のよくくくくくくく
若く沙和能者くくくくくくく

楮よ及ゆととえんりやう夫れ後き事一ら
Pよおらす又よ長お入言と控て衝きつて
秀台百萬の長としよもんやすくぬらつて
P巻く又よ忠今危き事入心然きし事す
ありかきまると述てるメよりいひし事
上意者いへ河と中通りめて秀台れ威勢
よおとれいへし治せんといふはわす能おも
めてこと思ふよ下のを礼えいへわして并
は進とて下におさゆす勢昂女坊せりよ
わすすといへ一と事入り同御て下静穏よ

向はつよ事秀台と并楮よ并いへる又筆
礼初つてて下のを部候よ候ぬをくま
よ治いへるわと出れ候もわくよ事何え下はあ
よ一人言と控んとそん控えし候と作て述
うの張長ら所行よわいへる巻角Pよ
及らりしとと足跡とし有達の村井候
よ多よしゆ方後のいひ述ゆもよ
西自方ゆと危いと早言ゆとわらん又よ
れらに御方と云れらき御方と云下よ代
らんとゆらつてしゆと云の候と天人よ感

通をなすまゆよしそて天入平人かよひかよひ
わのこころとほらまひしとてさねの明ら
を祖の四人常とわめて切長の死とすくえん務
まひ 東照宮と仰入常とつけて天入常の
すまんとおひひまひひまひひまひひまひ
ふらふよふまひひまひひまひひまひひまひ
はま車かまひひまひひまひひまひひまひ
つはひよるまひひまひひまひひまひひまひ
ひま車切の車まひまひひまひひまひひまひ
ひま車とほらひまひひまひひまひひまひひまひ

ままよそんすまひひまひひまひひまひ
流るる世の智流とぬじ者そあふ車平流
まてひまひまひひまひひまひひまひひまひ
つよまひ活とらまひひまひひまひひまひ
ひま車とほらひまひひまひひまひひまひひまひ
こまひひまひひまひひまひひまひひまひ

明明流

西條侍従 宮内直清流

ままひひまひひまひひまひひまひひまひ
ままひひまひひまひひまひひまひひまひ

新成

ゆりよちるちる良き物入る物さう
わらわりのけり君うよまうよ

乙土音

うらまふ家世れ一文まよと難波のう
無うはるよ福うはるまう

指物

家君入る物神の衣よまうてそそ
さうまはるまうまうまうまう

さうま春かかもちうはるまうまうまう

白雪れ義まうまうて神まう

きう一と一う山路りりり

致知

日とるううみまはるまうまうこれ

みられまうまう白川まう

日とるまうまうまうまうまう

さうまてかまはるまうまうまう
夜おの川波のらまうまうまうまう

誠意

いらるまうまうまうまうまう
まうまうまうまうまうまう

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜
ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜
ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

鳥羽玉のおと〜おと〜おと〜おと〜おと〜

おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜

おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜

人〜人〜人〜人〜人〜人〜

人〜人〜人〜人〜人〜人〜

人〜人〜人〜人〜人〜人〜
人〜人〜人〜人〜人〜人〜
人〜人〜人〜人〜人〜人〜

ふり

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜
ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜
ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜ふり〜

備

備〜備〜備〜備〜備〜備〜

備〜備〜備〜備〜備〜備〜

備〜備〜備〜備〜備〜備〜

さしてらんうかたすす

ふられ後方おちまはるるふらふらのやま
わけておしよらんうちるるわたりわたり
すくすく

廿家

いつまてとちりよ汲井う座清女

じすひもちせめらんと

秋風とうそよとまみあう四

人のとまふうらしみう福ハ

治世

あふりいらよ民れうるよと種

いん又さるう海りりり

河まことゆるちひるあはれ

まよと浮世よゆりうら

平天下

九まうあのおま衣袖さじく

あふりうらよ世とあひり

あふりあはれあはれよたづ

あふりあはれあはれよたづ

神祖ゆと世ゆへん

尾列大言

伝長

遠列者

膳料

江列坊門

朝倉

後列瀬戸

同

遠列味方原	佐玄	後列田中	脂粉
三列長藤	脂粉	後列持弘	脂粉
三列高之原	脂粉	後列枕之邊	脂粉
三列二股	脂粉	后列黃栢廬	氏直
三列以書野山	脂粉	甲列入	氏直
三列鳥籠	脂粉	甲列新府	氏直
三列見舟略	脂粉	甲列五泊	氏直
遠列代長井	脂粉	后列里野	氏直
三列天方	脂粉	後列長之原	氏直
三列志忠塚	脂粉	后列解野	氏直

遠列柳川	脂粉	后列弟田	氏直
三列高天神	脂粉	后列田原	氏直
三列駒場原	脂粉	武呂岩礮	十市
三列弟田合	脂粉	上列津形	河原
三列小山	脂粉	后列高井	氏直
遠列以酒原	脂粉	后列	真田
遠列以呂守	脂粉	後列安原	石田
三列大井川	脂粉	後列大坂	秀粉

永祿二年
 元康乙卯
 天正十九年
 嘉康乙卯
 天正二年
 天正七年
 天正九年

御朱印九巻長門年 御朱印五巻形又

表沙平丸 秀忠公慶長十八年四月廿書

判元和二年 御朱印家之永十之三年

沙書判 同年 御朱印表ととよ

家細云沙朱印之寛文二年と有沙書平丸

細云云御朱印貞享二年と有

又御所極沙朱印享保之三年十一月十一日と有

沙表平判者一少半氏也虎の下天心十七日

十月亦曰と有之六角小角外より小形多

のど記る虎の質者此沙大細云家由沙

書判尾列中細云家勝の書判水戸年

如家輪の書判如頃少将主照書判以

上書判朱印年と二十九條と云く家臣

の形とつる御とととととと

隆邑録

又御所極始享保年中堀大守以
佐島三郎 作自編著之書也

安藝 伯後 出雲 石見 隠岐 伯耆

伯中 伯備 伯后 長門

一二百十八百石 十列主 毛利右馬頭輝光

享長六年有飛田隆治と揚田治長門と云く四百石

一 伯備九百石 伯後 伯備 伯中 伯后 伯備 筑前中細云秀秋

至長七年卒于石塚

一 八拾万石

出羽水戸城主

伴行若浩次義宣

至長七年有罪去隠移于出羽秋田邑人良八万石
後加賜拾八万石云々

出羽今津城主

一 百二拾万石余

今津中納言常勝

至長七年有罪去隠移于出羽水戸邑人良八万石

一 拾九万石

出羽秋田城主

秋田末吉三少實次子

至長七年有罪去隠移于揚八万石

一 拾八万石

奥羽岩城城主

岩城祖馬守重勝

至長七年有罪去隠邑人良八万石

一 三万七千石

甲川主馬前重

至長七年有罪去隠邑

武八六年邑隠

一 八万石

丹波土八城城主

前田主膳心利家

至長七年有罪去隠邑隠

一説三万石云々

一 八万石

伊賀城主

筒井伊賀守定次

至長七年卒于石塚

一 六万石

在羽後松城主
筒井氏

松平氏馬込忠頼

同十四年卒于石塚

一 拾七万八千石

出羽土佐

中村伯耆守忠一

同十四年卒于石塚

一七拾万石 鍾後玉子 松平鍾後与忠俊

同十七年坐于水長之松玉除

一四万石 肥前玉子 有馬修理与文晴治

同十七年有飛流于甲斐之玉那之邑之賜死邑除

一三万石 久保隆石 与長安

同十八年坐于舞曲之車賜死邑除

一拾貳万石 伊予玉子 相澤城之富田信清与信高

同十八年坐于本邑除

一八万石 日向玉子 延島城之与備右進与文長次

同十八年坐于本邑除

一貳万石 濱河玉子 津城之 久保隆石 与忠俊

同十八年坐于本邑除

一八万石 信濃玉子 津城之 石川玄善 与信清

同十八年坐于本邑除

一 下野玉子 津城之 津野源次郎

同十九年正月九日坐于本邑除

一七万石 松前玉子 松前城之 与山右近 与隆長 与房

同十八年二月七日坐于那之禊之車 邑除 流于加賀玉

一 比田備後 与光重

同十八年八月一日坐于本邑除

一 四万八千石 由引七回名城之入之保中持与忠隣

一 同十九年有外口邑除

一 五万八千石 山口但馬与子雅

一 同十年坐于松久之保中持与忠隣婚姻之事邑除

一 五万石 安房与之 里見安房与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一 二万石 和列之与城之 福徳持与忠隣

一 同十年坐于和列之与城之 邑除

一 六万石 在引松久之保中持与忠隣

一 同十年坐于松久之保中持与忠隣

一 五万石 古田城部与忠隣

一 同十年坐于八日引坐于久之保中持与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一 六万石 和列之与城之 松平上総与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一 四万石 和列之与城之 坂浪出羽与忠隣

一 八万石 和列之与城之 同 長門与忠隣

一 同十年坐于久之保中持与忠隣

一九万石 新庄村上城之 村上因防与美明

同二年二月坐于邑内石谷邑除

一四万九千石 安藝河内後出之 福源河内与美明

同八年坐于城筑之 中一流于信濃河川中流
如深人良河内石谷物

一六万石 石田之河内浦与恒

同九年卒 女子邑除 一説上之永年中上卒又

一三万石 筑後水主 田中筑後与忠及

同七年八月卒 女子邑除

一七万石 出羽小形城之 寂山河内与美明

同八年海内中下正邑除 一説八十万石

一四万八千石 武列岩榎城之 青山因播与忠及

同九年卒 魁邑除

一五万石 世列之河内城之 中多上総河内正純

同九年海内後出除

一六万石 新庄与忠 松平之河内与忠及

同九年坐于大逆和乃流于平康河内与忠及

一五万石 世列之河内城之 成田河内与忠及

同九年二月十八日卒 女子邑除

一六万石 美列河内城之 松平下野与忠及

寛永九年正月廿二日卒 女子邑除 海内与忠及
松山城邑内中野与忠及

一三万石

奥列三天城之

松平石田忠与长继

同八年壬子邑除

式说之有相夜邑除

一六万石

德列之度城之

德永水后与女牙昌

寛永八年坐于大进和通邑除

一五万石

于时大坂所事

清田御前与重时

同八年井上之山中改然其治刑如平治时附懼
罪而自教邑除

一四万石

松列新田城之

片桐出雲与孝利

同八年辛壬子邑除附之湯三万石于其才也

一六千石

同八年坐于大进和通由除于上列之治邑

渡所大納之忠良

一三万八千石

甲列吉村城之
忠良也

高井清治与成次

一三万六千石

乙列御門城之
口也

朝会右筑後与忠良

同八年坐于大納之忠良也本邑除

一五万石

同八年七月辛壬子邑除

藏田河内与长次

式说之云信相夜邑除一說
二万石云

一五万石

同八年十一月辛辰壬子初城人良八千石

室上清八与美俊

一五万石

德列加納城之

松平越前与忠良

寛永九年正月辛壬子邑除

一五万石

同八年坐于大进和通由除于上列之治邑

堀坂之水正与忠良

寛永九年十月七日聖于池田寺後与寺
昭及休後与寺經事邑際

一 五万石

口年十月八日卒 寺子邑際

成瀬河原寺心成

一 六拾万石 北御寺

加茂北後与忠次

口年坐于寺後与寺 庵本流于出羽寺 庄内
邑一説云七十万石又九十一万石又寺子邑際

一 一才二万六千石 出云寺主

尾尾山城与忠清

口年九月卒 寺子邑際

一 二万石

寺子邑際

竹中宗玄寺子次

口年有私曲瑞北邑際

一 一才拾万石 龍引松山城

松平中督寺子補也相

一 一才拾二万石 洞川山城 寺子邑際 寺子邑際

寛永十一年卒 寺子邑際 寺子邑際

一 一才拾万石 出云瑞後与寺 寺子邑際

口年卒 寺子邑際 寺子邑際

一 一才拾万石 寺子邑際

口年坐于耶後与寺 天草邑際 寺子邑際

一 一才七万石 北川山城 寺子邑際

一 一才五万石 松平右近寺子邑際

口年坐于耶後与寺 流于寺子邑際

一 一才二万石 松平山城 寺子邑際

一 丁年卒 子邑除

一 没定 永十六年卒

一 二万石 佐列飯山城之

作之川之八市助長

一 十七万石 渡波玉之

生助之波玉之俊

一 丁七年坐于家后之車 佐列中利邑

一 六万石 比田

松平石也之輝隆

一 丁年相渡邑除

一 一万余石 括列完栗城之

平多因情与利長

一 丁十八年

一 四拾万石 奥列合津城之 加茂式於之備明成

一 丁二十年近封邑 丁官退居 丁石史玉台 永邑食
五万石

一 二万石 口由二十松城之

加茂氏於之備明利

一 丁年邑除 其車 石福

一 二万石

酒井山城之平隆

一 丁年坐于人不教流 丁佐信玉福山城除

一 佐列中板城之

水野遠江守

一 丁年卒 子邑除

一 一万余石 海川

桐生也之波玉之利

一 丁年近邑 源 丁官

一 一万余石

松原市口之元

一 丁年卒 子邑除

一 拾万石 御後出村上城之 昭 子外道之

一 川年中卒之 子邑除

庚午

松平下總守君明

一 十八万石 揚州城之

一 正保元年八月十八日卒 後子初減于今良源十八万石

一 廿万石 川中城之 松平右近守兼輝次

一 川二年有相後流于 德市 是山邑之除

一 四万六千石 丹波福知山城之 福重清治与純通

一 文安元年八月十八日卒 有相後自教邑除

一 二万八千石 川中城之 菅沼右近守兼定昭

一 川年中卒之 子邑除 得七石 于方之水之 子石 子祝

一 四万八千石 佐川中城之 久松平 因幡守 宝惠長

一 川年中卒之 子邑除

一 二万七千石 御田上 総次 佐長

一 文安元年九月 鈴川 卒之 子邑除

一 二万石 德川 玉邑 平 是石 伊豆守 定

一 康應二年七月 日 卒 度 嫡子 之 度 此 邑 除 揚子石 嫡子 市 十 石

一 二万石 行洞 物作

一 明暦十一年 卒之 子 邑 除 得 揚子 石 于 方 又 七 石

一 四万八千石 濠洲 丸 坂 城 之 小 崎 虎 之 物

一 川年中卒之 子邑除

一 貳万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 三万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 貳万石 三列川内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 拾貳万石 下総土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 三万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 二万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 七万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 貳万石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

一 二万七千石 本庄土府内城之日根野城於正高

一 〇〇年卒邑除有子依事本庄居

寛文八年二月廿七日坐于邑内甘菜禰而此怒若及
中不示及瑞美水之本流于隆矣此卷邑偏
子以流与者長出好由庄内邑除于次与焉流流由
松代之邑之除

一十一万石

豐引之助之助

貞平之膳之史品終

同六年八月八日坐于殉死之本城祿移于出羽
山形邑食九万石

一五万石

豊引

河達之部之補宗勝

同十一年四月三日坐于松平隆矣之松村之部之部
之部之知治之遠罪還去祿邑于松平隆矣之松村

一三万石

指引完要城之

比田教馬

同二年卒之女子邑除

一拾万石

下徳之古河城之

公井市力利久

延宝二年四月九日卒之女子邑除祿加賜之万石
于同族因情与利益

一貳万石

新江氏部之重矩

延宝四年卒之女子邑除祿加賜之万石于外族
新江氏部之重矩

一三万石

公井法濃与利益

同六年六月廿七日坐于其子之車邑除祿加
之万石于其子之車与利益

一貳万石

内中玉座城之

戸川隆敏之助

同七年十一月二日卒之女子邑除祿加賜之万石于其子

一貳万石

上徳之古河城之

公屋河与与利重

同年坐于大石致邑除祿加賜之万石于其子

一三万石

磐市之通明

同年省和夜邑除

一七万之万石

丹後之津城之水井法濃与重長

延宝八年六月廿六日道之吉邑津浦湯三万石

一 二万石余 志引多相城之 同慶和分水忠勝

一 八千六百廿六日坐于水井法德与尚長教揚湯

一 五万二千石 加之凡云作与直清

天和元年二月九日坐于松曲流于江野吉神方
邑之津浦说云作与の嫡子之文甲斐与直流行作

一 卅拾六万石 越後國之田城之 松平越後与克長

一 万二千石 坐于大石教流于河与吉松山邑嫡
子之河与保 流于河後与福山邑之除

一 二万石 上引石田城之 志田河野与佐隆

一 万石 坐于吉也橋竹流之没之吉也曲
之申流于河引山形邑子彈之吉也流于
揚引在徳邑之除

一 四万石 後引田中城之 酒井日向与忠能

一 万石 坐于吉兒雅聖以吉也流于
引引産根邑之津後与教揚六万石

一 十六万石 松平与和与直能

天和二年二月廿日坐于越後与克長之申福于
之津後与肥田邑之津人良七万石後又十六万石也故

一 二万石 重引唐津邑 松平上野与直能

一 万石 坐于越後与克長之申福于
之津後又二万石也故

一六万石 聖列島山城之 板倉月照心守道

17年坐于減源物於于佐列坂下邑後分賜
二万石曰族部中島主相

一六万石 攝列將石城之 中多出重子及利

17年二月立二〇坐于西東石正及邑内洞擊流
于出羽中庄内邑之陸後移于之河由是涉邑右
高流之於年月減女之後之相 去年六月庄内
蒲右

一八万石 是列極河城之 卜多部系子利長

17年10月10日坐于西東石正板于納後出
糸栗川邑之陸于村人官録之万石

一三万石 系小島此子一尹

天和二年八月未六〇坐于大由敷邑陸合邑百石
土城上邑之陸

一三万石 土方河野与陸隆

貞享二年七月立〇坐于西〇石正城于
納後土村上邑之陸

一三万石 筑後土松邊邑 百島河野与豊之靴

17年七月晦〇坐于土方河野与陸隆于
筑後土之而并邑之陸四邊于之源邑有守常誓痛

一三万石 福葉石正与心休

17年八月未八〇坐于土城曰筑前与正波揚死邑陸

一三万石 松平澄江元守治

17年十二月十一〇坐于大由敷流于西東石正并邑
土子下總土古河邑之陸

一 六拾万石

裁新出之

松平御前高綱田

口二年壬子月六日有相殿出津力石二万石御物
亦六万石ヲ丁父之部云佛

一 五万石

卜多法造与右周

貞享四年坐于本城福人良七石

一 五万石

坂本内訖主治

口二年口月坐于本城源合石二千出石

一 五万石

海口市口坂有

口二年八月亦入口後口族之口邑除合良石

一 五万石

羽波 子市

口二年坐于本邑除

一 五万石 岩引

堀田七作与

元禄元年九月亦入口坐于本邑除御物之石
亦十口少二石亦大也

一 五万石

此多也之若校与主及

口二年二月亦有外流于河野主在石邑除

一 二万石

小月久膳元重又

口二年八月之口坐于本邑除還于主福人良松平
七作与右周

一 二万石

与右周之九也常

口二年坐于本邑除御物之石于端子揚与

一 八万石

有馬良坊川作水純

口二年十二月十二日坐于邑因石治後于御後出系

奥川邑不減源分良六万石

一 卅万七千石 德列於上城之 遠友 岩松 希久

川六千八百石 卒之字邑際 津陽 三万石 外族 叔子
胤 親之 為 後

一 拾八万石 奥列 白川 城之 松平 下 總 与 忠 弘

川七千七百石 二 坐 于 奥 中 不 正 減 源 出 好 山 於 邑
松 平 石

一 八万石 下 總 坐 古 城 之 松平 日 向 与 忠 弘

川六千六百石 十一 月 止 八 日 有 相 後 邑 際 津 陽 二 万 石 于 武 藏 之

一 八万石 内 中 坐 松 山 城 之 水 谷 津 七 万 石

元 禄 六 年 二 月 廿 七 日 卒 之 字 邑 際 津 陽 二 千 石
于 川 族 之 水

一 五万石 西 川 市 正 治 貞

川 年 十 二 月 九 日 坐 于 本 城 源 合 良 六 千 石

一 二万石 和 列 于 奥 城 之 織 田 信 長 与 治 武

川 年 八 月 六 日 自 叙 邑 際 津 陽 二 万 石 于 吉 子
与 治 与 治 恒

一 四万六千石 下 总 越 源 与 平 光

川 年 二 月 廿 日 坐 于 奥 中 之 石 治 流 于 因 列
与 取 邑 後 人 良 六 千 石 与 治 恒

一 四万五千石 奥 列 出 石 城 之 小 出 久 子 代

川 九 年 十 月 卒 之 字 邑 際

一 十八万六千石 奥 列 出 石 城 之 奥 与 治 与 長 成

口十年八月二日有相疾也臨津揚二万石
又因池長胤之万石對之長後揚三万石

二十万石 伯後也福山城之 水野牧之物勝大

口十一月六日卒之子也臨津揚三万石口旗
臨政与勝長為其後也

一 壹万石 伊丹氏系勝守
之福十一年九月十日有相疾也臨

一 八万石 本系中津城之 小之系他理之史也亂
口年坐于久不致矣因也後本平臨于也後

也小之系也臨津揚三万石于也後也長四

一 二万石 伊達氏系勝守村知
口十二年十月八日坐于本屏居還于源也

于松平隆矣与源村

一 八万石 浅野氏系長矩

口十四年二月十日坐于吉良上野城義英本
揚死也臨

一 壹万九千石 城列吉村城之 丹羽和自水也氏音

口十五年六月十日坐于中石也臨津揚三万石

一 壹万石 智列長治城之 松平作俊也良昌

之福十二年七月十日有相疾也臨津揚八千石
于福子又口市揚子石次子道也臨

一 二万八千石 是列柳川城之 井伊之也少輔也朝

室永二年十二月二日有相疾也臨津揚三万石
于本氏子也

一 壹万石 第四系女利昌

口年六月十六日坐于教藏口監物秀親揚丸
邑除還之禄邑于松年志深与利子

一十六万石

小多吉十市力考

口七年九月十日坐于平之志除津物八万石
于同族中替之備也良以爲之役下

一三万石

屋代藏中吉考

一六万石

防引津山城之

毛利志深与元次

口七年四月十日坐于本流于相引新庄邑
邑除還之禄邑于松年或於備台元

四万石

本流中津城之

小之京造酒女長是

享保元年九月六日坐于志除津物二万石于才
吉三市

